教育民生常任委員会　摘　録

１．開　催　日　　令和７年９月25日（木）　　第２委員会室
２．出 席 委 員　　前田智永委員長　國利知史副委員長　近藤久子　岡野茂　青山学　松森潤平
３．欠 席 委 員　　なし
４．事務局職員　　橋本和憲議会事務局主任主事
５．説　明　員　　岡本貢生活福祉部長　亀山慎也保健医療課長　横山美和子保健医療課健康推進係長
６．傍　聴　者　　なし
７．会議に付した事件
　　１　健康寿命の延伸について
　　２　行政視察について
　　３　閉会中の継続調査について
　　４　その他

－－－

命の延伸としています。計画の体系ですが、基本目標は健康増進・食育推進・自殺対策の３項目。分野は各目標に合わせて８項目。さらに、その基本施策として取り組む項目の９項目で構成しています。概要版の２ページと３ページをお願いします。各分野にはそれぞれ、一人一人が取り組む行動、みんなが取り組む行動、市の取組というように、目的達成のための具体的な役割について記載しています。このうち、市の取組については、２ページ上段の「身体活動・運動」では、ウォーキング教室や室内での軽スポーツなど、運動習慣がない人や幅広い年代が取り組みやすい事業を行っています。これらの事業については、広報紙等で情報提供を行っています。また、市内事業所へ血圧に関するチラシを配布し、従業員への啓発を推進していただくことで、働く世代の健康意識の向上へきっかけづくりを行っています。同じく下段の「歯と口の健康」では、広報しょうばら、商工会報等でオーラルフレイルの情報提供を行っています。また、各地域でのイベントで歯と口の健康について説明しながらフロス等を配布しています。保育所、幼稚園、小学校では歯磨き指導を実施しています。また、定期的な歯科検診の必要についても、広報しょうばら、商工会報、ＳＮＳ等で啓発を行っています。次に、３ページをお願いいたします。上段の「生活習慣予防」では、広報しょうばら、商工会報や、各地域のイベントに参加して、がんや生活習慣病の予防の啓発を行ってます。また、中学校３年生を対象に行ういのちの授業で生活習慣病についてのチラシを配布し、中学生と保護者に向けて啓発を行っています。同じく下段左側の「フレイル予防」ですが、これも広報しょうばら、ＳＮＳでの啓発や、市が主催する健康講座、地域単位での老人会などでフレイル予防をテーマに啓発等を行っています。また、地域サロンなどの世話人を対象とした講座を行い、集まりの場を継続支援するためのプログラムなどの情報提供を行っています。その横の「地域活動」ですが、自治振興区単位で介護予防につながる教室等を実施して、企画の段階から自治振興区と話を進め、またシルバーリハビリ体操指導士へのフォローアップやスキルアップのための研修を行い、指導士の皆さんが地域で活動しやすい環境をつくる取組を行っています。次に、４ページと５ページをお願いします。基本目標を「おいしく食べたい」、食育推進計画として４ページ上段の「食への関心・理解を深め、体験する食育」から５ページ下段の「食を支える仕組みづくり」まで４つの基本施策に分けて記載しています。ここでの市の取組ですが、４ページ上段の「食への関心・理解を深め体験をする食育」では、放課後児童クラブを会場として子ども食育教室を行っています。また、男性の食事づくりの促進や情報交換の場として各地域で男性料理教室を開催しています。同じく下段の「望ましい生活習慣の定着」では、ザ・ビッグ庄原店を会場として、野菜摂取の必要性について、ベジチェックを行っています。保育所や小中学校では、給食だよりや保育所だより、保護者対象の講演会等で啓発を行っています。次に、５ページ上段の「食文化の継承」では、郷土料理の調理実習、親子の食育教室などを東城地域と高野地域にいる食生活改善推進員とともに実施しています。また、地産地消推進店への登録継続についても働きかけを行う等の取組を行っています。次に、６ページと７ページをお願いいたします。基本目標を「こころ豊かに暮らしたい」、自殺対策計画として６ページの「休養・こころの健康」と７ページの「自殺対策」の２つの分野に分けて記載しています。ここでの市の取組ですが、６ページ、「休養・こころの健康」では、広報しょうばらで睡眠・休養などの情報共有を行ったり、こころの健康講座を開催して情報提供を行っています。また、あわせて市内事業所にも情報提供を行っています。続いて、７ページ、「自殺対策」では、相談窓口について、庁舎内、企業、ショッピングセンター等で情報発信等を行っています。また、中学校３年生には、いのちの授業や、卒業前の時期に相談窓口の情報のチラシの配布等を行って

います。生活困窮者の自立支援や高齢者の実態把握等を行い、閉じこもり傾向の方への支援、対策、対応を行うなどの取組も行っています。市の取組について説明しましたが、全体を通して特に力を入れていることですが、健康増進分野では、フレイル予防の取組、シルバーリハビリ体操の推進、特定健診、がん検診。食育推進分野では、先ほども言いましたフレイル予防の取組。自殺対策分野では、様々な世代への啓発や情報提供を行っています。最後に、８ページですが、こちらには本計画の成果目標を分野別に抜粋したものを掲載しています。その下に図がありますが、今後もこの図のように「めざすのは、生活の質を高めること」、「しあわせな人生を送ること」で生活の質の向上を高め、健康寿命の延伸についての取組を引き続き行います。説明は以上です。よろしくお願いいたします。

○前田智永委員長　　ただいま説明を受けました。ここからは委員の皆さんの質疑を行いたいと思いますけれども、全体の質疑を行うのがいいのか、項目に分けて深く話を聞くのがいいのか、どのようにしましょうか。皆さん、御意見がありますか。ありませんか。それでは、３つの項目に分けて説明していただいたので、３つの項目に分けて質疑を行います。まずは、２、３ページの健康増進計画のところで何か質疑や意見があれば挙手をお願いいたします。「身体活動・運動」、「歯と口の健康」、「生活習慣病予防」、「フレイル予防」、「地域活動」のことを伺いますので、忌憚のない御意見を。近藤委員。

○近藤久子委員　　8020 というのは 80 歳で 20 本でしたか。その数字の経過は最近どうなのでしょうか。

○前田智永委員長　　課長。

○亀山慎也保健医療課長　　8020 の達成の表彰者数ですが、長期総合計画にも載せていますが、令和３年度が 201 人、令和４年度が 236 人、令和５年が 269 人、令和６年度が 325 人で、令和６年度の達成目標を 250 人以上と定めていますので、その数字については超えている状況です。

○前田智永委員長　　近藤委員。

○近藤久子委員　　ということは、高齢者の方は歯に対して非常に関心が高いということが今お示ししていただいた数字で分かるのですけれども、ここにあるように、かかりつけの歯医者がいない人の割合が若い世代で高いことが少し課題かなと思います。歯の治療は決して安くありません。結構高いですよね。高い治療費や診療代が若い人にとって少し敷居が高くなってるのかなという感じもするのですけれども、その点はどうですか。受け止めておられることがあるのかどうか。

○前田智永委員長　　係長。

○横山美和子保健医療課健康推進係長　　言われるとおり歯科検診の敷居が、時間的なこともあるのかもしれませんが、皆さん、学校では割ときちんと歯科検診を受けられているのですが、学校を卒業するとなかなかそういう機会が少ないということで、最近、市でも歯周病健診を行っています。こちらは、20 歳から 10 歳刻みで最長 70 歳までの市民の方に、市内の歯科医院で歯周病チェックを受けられる無料の受診券を配っています。こちらで、入り口といいますか、まずは歯科に行って健診を受けていただく重要性を少しでも理解していただければなと思って取組を進めています。

○前田智永委員長　　近藤委員。

○近藤久子委員　　とても重要ですね。認知症の場合、脳の検査をすると歯周病菌が脳まで行っていたという情報をもっと分かりやすくお伝えいただいたほうがよろしいかと思います。心臓病の方は歯から菌が行ったりとか、それがいかに大事かということは広報、啓発活動をされていると思うのですけれども、重要なポイントを絞ってされたらいかがかなと思います。

○前田智永委員長　　御意見でよろしいでしょうか。

○近藤久子委員　　はい。

○前田智永委員長　　他にありますか。青山委員。

○青山学委員　　８ページを見ると、たばこを吸う人の割合を12%以下にという目標があって、３ページを見ると、喫煙する人のうち、やめたいと思っている人は約３割とあるのですが、そういった人に対する、サポートのようなものというわけではないのですけれども、市でどういった取組をされているのか、あれば教えてください。

○前田智永委員長　　係長。

○横山美和子保健医療課健康推進係長　　たばこ対策についてですが、まず、妊婦の方が母子手帳を取りに来られた際に、もちろん御本人に、たばこに関するアンケートを取らせていただいているのですが、その中に、周りに吸われる方がおられるのかどうかという質問もあります。今頃は御夫婦で母子手帳を取りに来られることが割と多いので、母子手帳を渡しながら、たばこの害についてといいますか、そういった啓発を行っています。もう１つは、先ほど課長も少し話をいたましたが、中学校３年生を対象に、いのちの授業を実施しています。これは、もちろん出産等を通して自分の命の大切さに気づいていただくということもあるのですが、中学校３年生ですので、今後、高校生になって自分のことをいろいろと決めていかなければならないということで、いろいろな情報を提供しています。その中で、たばこの害についての話もしています。本来なら吸っていただきたくはないのですが、こういった害があるということを早いうちから知っていただいて、それが御家族のことにもつながればいいなという気持ちで行っています。

○前田智永委員長　　他にありますか。

○近藤久子委員　　以前、本庁のロビーに、たばこを吸って真っ黒になった肺の写真がいっぱいありましたよね。ああいうショッキングなことを継続してされたほうがいいのではないですか。あれを見るとかなりショックですよね。１日に何十本吸う人の肺はこれほどまでに真っ黒ですよと。それと、医師がたばこを吸わないのは、患者の中で、病気になって一番しんどいのは呼吸困難になる状況なのを医師は見ているからたばこをやめたという話も聞いたことがあるのですけれども、切り傷とかではなく肺がどれだけ大切なのかと。ああいうショッキングなことは度々してください。何とか週間のときに。

○前田智永委員長　　危険意識を持たせるような啓発の仕方ということで。課長。

○亀山慎也保健医療課長　　御意見いただいたように、それらをまた見て、何年間していないのか分りませんが、見せ方なども考えて掲示を検討します。

○前田智永委員長　　近藤委員。

○近藤久子委員　　その時にはニコチンがどのように体に害があるのかということもきちんと書かれていました。カラーだからすごくよく分かると思います。これは希望です。

○前田智永委員長　　他にありますか。松森委員。

○松森潤平委員　　先ほどの話と関連するのかどうかは分かりませんけれども、「生活習慣予防」と「歯と口の健康」のところに啓発という言葉が結構出ています。どのような手法を用いて啓発されているのか、勉強不足なのですけれども、教えてください。

○前田智永委員長　　係長。

○横山美和子保健医療課健康推進係長　　啓発の仕方ですが、まず、禁煙のことであったり、がんであったり、先ほど言われた週間がいろいろあります。そういったときには、市のＳＮＳ、ホームページ、

ＬＩＮＥなどを使わせていただいたり、広報しょうばらの健康広場というコーナーを１ページ使っているのですが、そちらの中で、テーマを決めて生活習慣病対策のことについて広報しています。あとは、いろいろな地域の団体のところに出向いたときに、そのときの状況に応じた情報提供を行ったりチラシを配布することに取り組んでいます。

○前田智永委員長　　関連して、最近、サロンやデイホーム事業などに保健師の方が来てくださってこういったお話を伺うという傾向も見られるのかなと思うのですけれども、これは市として進めておられる事業の一環なのか、保健師の方や現場の方々のそれぞれの声であるとか、参加者の声や要望とかがあってなのか。こういった流れが何かあれば教えてください。係長。

○横山美和子保健医療課健康推進係長　　事業がいろいろあるのですが、１つは介護予防の取組で、集まり場に保健師が出向いて介護予防に関する話をする事業と、もう１つは、それこそサロンだけではなく職域団体や子供等も含めるのですが、健康に関することで保健師が出向く事業で、大きく２つに分かれます。介護予防のほうは、こちらから、今年はこの地域だなということで昨年度行かせていただいていないところを中心に、どこに行かせていただくのか話をしながら進めるのですが、それ以外にも地域のいろいろな集まり場の団体からお声がかかるので、各支所も含めて出向かせていただいて、内容もその時々で、こういったテーマがという御要望もありますし、御要望がなければこちらから、今こういうことはどうだろうかと提案することもあります。

○前田智永委員長　　岡野委員。

○岡野茂委員　　庄原市健康づくり推進計画ですが、市民の皆さんが健康に暮らすことは自治体の仕事かなと思うのですけれども、例えば、この計画は任意の計画なのか、必ず計画をつくらなくてはいけないのか。そういう、国・県・市の体系のようなものが分かれば教えてください。これは庄原市独自の計画なのか、なぜこういう計画をつくらなくてはいけないのかといった法的な根拠といいますか、その辺の体系といいますか、決まりを教えてください。

○前田智永委員長　　健康づくり推進計画全体のことですね。

○岡野茂委員　　はい。

○前田智永委員長　　部長。

○岡本貢生活福祉部長　　先ほど説明いたしました健康づくり推進計画の根拠となるのは、国の健康増進法です。そこでは、基本的には努力義務ということで、定めるよう努めることとなっていますが、基本的には全国どこの市町村も定めています。概要で説明した中に３つの計画、健康増進・食育推進・自殺対策がありますが、食育推進については同じように努力義務で、自殺対策については策定義務ということで、それぞれ分かれています。

○前田智永委員長　　副委員長。

○國利知史副委員長　　長期総合計画画の中には入っていないとのことですけれども、関連して、私が所属している団体でいいますと、小学校と中学校で薬物乱用防止講座をしているのですが、その講座の中では、飲酒とたばこの話もします。もちろん、大麻とか覚醒剤とかそういった薬物系の乱用を防止するための講座もするのですけれども、庄原市で何かそういう薬物関連の情報というか、依存されている方がおられるとかそういう情報は市には入ってこないのですか。課長。

○亀山慎也保健医療課長　　入ってきません。

○前田智永委員長　　副委員長。

○國利知史副委員長　　そのことが自殺につながったり健康を崩す元になったりするので、多分、数はものすごく少ない、もしくはおられないとは思うのですが、その辺の取り扱いをどうするのかなと。私たちの団体では同じくくりでしているので、どうなのかなという素朴な疑問で質問しました。

○前田智永委員長　　保健医療課だけではなく、教育委員会では学校教育の中で薬物乱用防止の授業とかもされているので、その辺りは生活福祉部と離れるかもしれませんけれども、市として関連するところは今のところ思い浮かばない感じですか。部長。

○岡本貢生活福祉部長　　答えにならないとは思いますけれども、基本的に、保健医療課で所管しているこの健康づくり推進計画の中にあるのは、生活習慣とか、基本的な暮らしの中で、法律的には認められているけれども控えたほうがいいとかそういう視点になるかと思います。法律で違法なものについては、この中で、しないほうがいいよというようなことを言うべきではないのでそういう線引きをしているかと思います。

○前田智永委員長　　岡野委員。

○岡野茂委員　　庄原は自殺が多いという数字が以前あったように思います。間違いだったら申し訳ないのですが。

○前田智永委員長　　まだそこまで行っていないのでもう少しお待ちください。

○岡野茂委員　　はい。

○前田智永委員長　　皆さん、この項目についてはこの程度でよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○前田智永委員長　　それでは、続いて、４ページと５ページの食育推進計画のところで話をしますので、このページについての質疑をお願いいたします。近藤委員。

○近藤久子委員　　先ほども話があったのですけれども、食生活改善のグループが高野と東城にあると。今まではよそにもあったけれども、だんだんと減ってきていると。そういう状況の中で、今している東城にせよ、高齢化して次に引き受けていただける団体とか人たちがなかなか見つけにくい状況にあると思うのですけれども、その点はどのように捉えておられますか。

○前田智永委員長　　課長。

○亀山慎也保健医療課長　　確かに、この団体に限らず他の団体についても、市内に旧７市町ある中で、総領であったり、口和であったり、ばらばらでされていて、しかも団体数が少ないという状況はいろいろな場面であります。今年も団体と協議しましたが、その中においても、年齢が高くなって跡継ぎがいないということでなるべく若い人が参加しやすい形を考えながらしているという団体もそれぞれありましたので、その中に、協議に入らせていただいて、私たちにもできる部分があれば、一緒に若い人を呼び込むような策をとっていきたいと考えています。

○前田智永委員長　　近藤委員。

○近藤久子委員　　名目は食生活の改善ですよね。それを、今、若い人と言われたけれども、では、若い人の感覚で食生活の改善をどのような形ですればいいのかなと。このようにしてくださいというものがあるのかどうなのか。今されているメンバーの方の御意見をしっかり聞いていただいて、今までは私たちがしてきたけれども、もう年だから無理だよね、どうすればいいのかなから始まって、食生活の改善は、それこそ塩分控え目であるとか、基本のことを皆さん頑張ってされています。野菜は１日にこれだけお皿いっぱいとらないといけないねということを、子供にも分かるような感じでされてい

ます。そういう活動を継続するためにはどうすればいいのだろうかというのを、だんだん細々となっていくのではなくて、根を少し太くする方法をみんなで考えたほうがいいと思います。かなり高齢化しています。今のままなら消えるかもしれない。

○前田智永委員長　　高野においても東城においてもそういった声は非常に多く聞きます。何か方策を立てていかなければいけないのかなと現場の方々が言われているのはよく聞きますけれども、そういった方向性のような話し合いはされているのでしょうか。課長。

○亀山慎也保健医療課長　　話し合いはしていないのですけれども、私も実際に４月か５月に一度、東城に招待されて、行った先で昼御飯を頂きました。感じとしては薄味なのかなと思っていたのですが、実際に提供していただいたものを食べると全くそんなことはなく、非常においしく食べられたので、まずそういったところに若い人に参加していただいて、どういうものなのか雰囲気を見ていただくということを、まず知ればいいのかなと。私も先入観を持っていましたが、そんなことはなかったので、そういったことも検討したいと考えています。

○前田智永委員長　　岡野委員。

○岡野茂委員　　食生活改善のグループが２つあると。どういう目的の団体で、どういうところを目指して活動されているのか。私は勉強不足なので教えてください。

○前田智永委員長　　係長。

○横山美和子保健医療課健康推進係長　　食育推進団体は全国に、県にもありますが、基本的には自分たちの健康は自分たちでということで、食を通じて健康づくりを進めようという団体の皆さんです。ふだんの地域活動の中で、先ほど言われた、薄味だったり減塩だったりを皆さん方がまず学習されて、それを自分たちの周辺の方に広げていくというような活動をされたり、あとは、食文化の伝承ですよね。例えば、高野の方であれば、子供たちのグループに入って一緒に巻き寿司をつくられたりとかそういった取組を通じて、食に関することから皆さんで健康づくりを考えようというような会です。ただ、先ほどから言われるように、皆さん方が御高齢になられているということで、その活動が今までのようにたくさんはしにくくなっているのかなということはあるのですが、皆さん方の中で考えながら取り組んでくださっています。

○前田智永委員長　　他にありますか。近藤委員。

○近藤久子委員　　このグループが、気がついたらなくなっていましたねというのはまずいのです。今しんどい状況にありますから。先ほど岡野議員から質問がありましたが、これは何のためにつくられたのか、しないといけない、誰がするのか、今しんどい。では、どのような形にすれば、やり方が変わってもこの目的が達成されるのだろうかということがあってもいいのではないかと思います。ここの課はデイホームなどの担当もされていますから、そういう事業の中に、サロンの中にこういう項目を必ず入れてくださいねというのも１つかもしれません。やり方を考えていただいて、消えてなくなりましたねということが決してないような形にしていかなければならない運動かなと思っています。よろしくお願いします。

○前田智永委員長　　民間も一緒になって、みんなでいま一度、やり方、今後の体制づくりのことも考えていきたいところです。他にありますか。副委員長。

○國利知史副委員長　　５ページの食文化の継承のところで、庄原産農畜産物をよく食べている人の割合は低いとあるのですけれども、今回の私の一般質問にも絡んでくるのですが、庄原産の野菜とか農畜

産物を買える場所が限られてるということはすごく大きいのかなと思っていて、例えば、今回一般質問をした「ゆめさくら」を、もっと地元の人が集いやすいような場所にするとか、「ゆめさくら」だけではなくて、総領、東城、比和、口和にはありますけれども、そういうところに市民の方が行きやすいようにすることによって、多分、農畜産物が少ないということは、ふだんの日常生活で食べる機会が少ないということが大きいのではないかなと思います。そういう農畜産物の、地産地消推進店への登録を呼びかけたりとかはされていると思うのですが、例えば、ザ・ビッグには地元のものが少し置いてありますけれども、フレスタとか、そういう皆さんがよく行く場所への働きかけは今のところされていないのかどうなのか、その辺りを伺います。

○前田智永委員長　　課長。

○亀山慎也保健医療課長　　フレスタとかザ・ビッグに向けての働きかけは、今のところしていません。あくまでも地域で営業されている飲食店だけに行っている状況です。

○前田智永委員長　　副委員長。

○國利知史副委員長　　日常的に使っていただけるようにすることが一番いいのかなと私は思っているので、その辺も少し考えの片隅に置いておいてください。

○前田智永委員長　　他にありますか。岡野委員。

○岡野茂委員　　地元の農畜産物を食べることが少ないということですけれども、このデータですが、例えば、自分の家に畑があって野菜をつくっていて、自分で食べている方も結構おられると思うのですが、どのような形で少ないということを、根拠となる数字はどうやって捉えたのですか。お店で買う割合が少ないということですか。

○前田智永委員長　　庄原産農畜産物をよく食べている人の割合は低いという文言に対しての根拠ですね。部長。

○岡本貢生活福祉部長　　具体的にこれだということは示せませんけれども、この計画の中に分析として書かれている部分は全て、住民アンケートを基にしています。

○前田智永委員長　　他にありますか。食育推進計画についてはこの程度でよろしいですか。また後ほど総合的なところで触れていただいてもいいかと思うので、次に行ってもよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○前田智永委員長　　それでは、６ページと７ページの自殺対策計画のところ、概要版でいえば２ページにわたって書かれていますが、この辺りで質疑があればどうぞ。岡野委員。

○岡野茂委員　　県北の地域、庄原だったのかよく覚えていないのですけれども、自殺者の割合が県内で高いと。なぜなのだろうと思った経験があるのですけれども、もしそういう現実があって、計画として庄原では特別にこういうところに力を入れているということがあれば教えてください。

○前田智永委員長　　係長。

○横山美和子保健医療課健康推進係長　　県北というか、備北地域だと言われてはいます。実数がどうのこうのよりも、もちろん０人のほうがいいのであれなのですが、この統計は人口 10 万人当たりで補正されたデータになるため、人口が少ないエリアはどうしても高く出る傾向があります。とは言いながらも、０人ではありませんので、取組はしっかり進めていきたいというのが現状ではあります。特別にといいますか、実際に自殺行動を起こされる背景は皆さん、様々です。アルコールであったり、もちろん生活も、御家族関係であったり、人間関係とかたくさんありますが、原因は様々ですので、そ

れぞれの方に応じた形で、現状は個別の方への取組というのはそのようになってしまうのですが、それ以外に、ふだんから人間関係といいますか、身近な方が御本人の話を聞けるように、しっかり聞くことで自殺行動がかなり抑制されるといった結果も出ていますので、今の取組としましては、ゲートキーパーという制度、ふだんからしっかり話を聞いて、よくないときにはどこかにつないであげようかなという方を増やそうという取組をしています。

○前田智永委員長　　部長。

○岡本貢生活福祉部長　　今説明したことも含めて、ちょうど今月の広報しょうばらに、どの年代、どの性別の方で自殺が多いのかということを掲載しています。その中にも、ゲートキーパーを養成していることや、心の健康講座を開催していること、それから、市の窓口ではなくても相談ができる場所の紹介にも取り組んでいますので、そういうことをいろいろな場面を通じて、市民の方の目に触れるような形で啓発していきたいと考えています。それと、１つ前の質問で庄原産農畜産物をよく食べている人の割合のことがありましたが、健康づくり推進計画の本編の中に、アンケートの分析結果、数値がありました。１つ前の計画を策定するときに、15歳以上を対象としたアンケートで、庄原産農産物をよく食べている人の割合は31.9%という回答でした。約３人に１人でしたが、今回の計画を策定するときに、令和５年度にアンケート取ったときには24.9%に下がっていたため、これについては目標値を40%と定めて、そこに向けて、先ほどの地産地消のことも含めて取組を進めている状況です。

○前田智永委員長　　副委員長。

○國利知史副委員長　　７ページに自殺で亡くなった方の構成割合があります。５年間の年齢別になっていますが、ここ数年の推移というか、自殺で亡くなった方が増えているのか減っているのか、または同じぐらいなのか、その辺の推移が分かれば教えてください。

○前田智永委員長　　部長。

○岡本貢生活福祉部長　　直近といいましても令和４年までの５年間ですが、この出し方は実際の人数とその割合ですので、この５年間では、最初は高くて途中から減ったのですけれども、最後のほうでまた増えているという状況にあります。人数的なことはここでは申し上げられないのですけれども。

○前田智永委員長　　近藤委員。

○近藤久子委員　　この数字を見ると男性の皆さんはショックを受けられるかもしれませんけれども、男性は女性の２倍であるということ。同居家族がいる人の割合が高いのです。独りぼっちで寂しくて自殺するということではなくて。相当なストレスがあるのかもしれませんが、男性が女性の２倍であるというのは、全国的にそういう数字が出ているのですか。広島県でもそうなのですか。

○前田智永委員長　　係長。

○横山美和子保健医療課健康推進係長　　男性の方が圧倒的に多いです。

○國利知史副委員長　　男性のほうが圧倒的に多い、同居家族がいる人の割合が高い、男性は悩みを相談する相手がいないと答えた人の割合が高いということで、現状でも相談できる人がいない 50 代から60代が高いという結果が出ています。家族がいても相談できる人がいないというのは、夫婦関係がうまくいってない人にそういう傾向があるのか、お父さんが家族の中で１人浮いているとか、わかりませんけれども、そのように相談できる相手が家族にいるにもかかわらずこういうデータが出ているのは、こういう傾向があるのかなというのは何か分かりますか。

○前田智永委員長　　課長。

○亀山慎也保健医療課長　　分かりませんが、男性は皆さんが集まる場に、例えば、デイサービスであるとかサロンであるとかそういったところに、自分の親も含めて、なかなか足が運べないというような状況があります。女性の方は割と寄って話をされる機会が多いのですが、男性は言われてもなかなかそこに行けない、ハードルが高いので、その分話をする機会も難しいのかなと。また、仮に家にいたとしても、家にいるから聞いてもらえるということではなく、逆に、家にいるからこそ話ができないと聞いたこともあるので、そういったことも要因の１つではないかなとは感じています。

○前田智永委員長　　部長。

○岡本貢生活福祉部長　　補足いたします。今言われたのがまさに孤独と孤立の違いだと思います。幾ら家族がいても自分１人で背負ってしまうのが孤立で、そのことが原因ということがあります。全国的にですけれども、自殺に至るまでにどういうことが原因になっているのかという中に、家族間の不和であるとか、介護疲れとかそういうこともあります。ですので、高齢夫婦間での介護の関係とか、夫婦だけれどもなかなか折り合いが悪いとかそういったことから自殺につながることもあるという分析はされています。

○前田智永委員長　　青山委員。

○青山学委員　　９月が多いということがあって９月は自殺予防週間の横断幕が掲げられていたと思うのですが、９月が多いのは庄原市もそうなのでしょうか。それとも、そういったことはないのか、統計がとれていないのか、教えてください。

○前田智永委員長　　庄原市も９月が多いのかどうか。係長。

○横山美和子保健医療課健康推進係長　　月までは分析できていません。今まで私が知る中では、むしろ割と冬場の雪が積もっている時期に何件か続いたことがあったと思います。今、９月に自殺防止週間を実施しているのは、主に夏休み明けの長期休暇後に学校に行ってしんどくなるということで、啓発の週間として９月に定められていると。国の週間なのですが、そのようなことがあります。

○前田智永委員長　　青山委員。

○青山学委員　　悲しいことに10代と20代の死亡の原因は自殺が大変多いということで、先ほど言われたように、８月までの休みが明けて９月になってということもあるのかなと思います。７ページの（１）の一番最後にある、各学校において、いのちの学習やＳＯＳの出し方に関する教育を実施しますというのも、いつやるのが効果的なのか、もちろん各学校でいろいろ考えて取り組まれていると思いますが、これに関しては、夏休み前にするとか、それとも９月にするとかそういったことは学校に任せている状態なのでしょうか。

○前田智永委員長　　係長。

○横山美和子保健医療課健康推進係長　　今お聞きしているのが、新年度が始まる前の時点でこの話を教育委員会から学校の先生方にされていると。する時期はそれぞれの学校の状況に合わせてとのことですが、担当課からは新年度の前に話をしていると伺っています。

○前田智永委員長　　青山委員。

○青山学委員　　10代、20代は何月が多いかとか、私も高齢者になると冬のほうが多いのではないのかなと思うので、そういった季節とか対象を見て、今までのようにしっかりとお願いいたします。

○前田智永委員長　　副委員長。

○國利知史副委員長　　先ほど、50代、60代の方が集まり場とかに行くのはハードルが高いという答弁を

課長から頂いたのですけれども、そういう、自殺が多い50代、60代の男性の方、ハードルが高い方に対しての、例えば、ゲートキーパーの説明だったり、そういったものを各企業に行って知っていただくような活動とかはされているのでしょうか。

○前田智永委員長　　係長。

○横山美和子保健医療課健康推進係長　　実際に出向いてまでは協議等はできていないのですが、商工会議所等を経由して、こういった取組をしていますという御紹介をしたり、市が行うゲートキーパーの研修の御案内を市内の事業所にしてはいます。ただ、皆さん、勤務の都合等もあるので、実際に参加することがなかなか難しい方もおられます。今年はまだ行っていませんが、昨年度は何名かの企業の方がお越しになったと聞いているので、引き続き取組を進めていきたいと思っています。

○前田智永委員長　　近藤委員。

○近藤久子委員　　以前にも取り上げた記憶があるのですけれども、ここに書かれているように、ゲートキーパーの役割を担えるように講座を実施しますと。大変責任が重いですよね。だから、講座を受けてどのような行動をとられるのかなと思うのです。あの人は心配だから話をしに行ってあげよう、その人とどのように接すればいいのだろうかから始まって、接することが意外と逆方向に行く場合もあるし、難しいと思うのですけれども、ゲートキーパーの方からはどのような意見があるのでしょうか。ゲートキーパーの方の思いは。

○前田智永委員長　　係長。

○横山美和子保健医療課健康推進係長　　言われたことはまさにそうだと思います。ゲートキーパーという名前はついてはいますが、ゲートキーパーだからといってすごく責任が重いというものではなくて、死にたいという気持ちを持たれている方が誰かに相談をされると、された方は死にたいと聞くとどうしても一歩引いてしまう方が多いです。それだけで話を聞かずに終わってしまう方が多いので、そうではなくて、まずこういう話の聞き方をしていただいたらいいよとかそういったことを学んでいただくような形になっています。なので、市としても、ゲートキーパーという名前を前面に出すほうがいいのか、もっと気軽に来ていただけるような形の啓発をもう少し考えないといけないのかなとは思っています。

○前田智永委員長　　近藤委員。

○近藤久子委員　　自殺願望というと、本当に心の奥底というか、それぞれの闇が違います。あなたには話したくもないというほど表に出る人とか、出さない人のほうが危ないとか、躁鬱の関係で躁の人のほうが危ないということもあります。そうなってくると、精神科医や心療内科医とかは、言葉遣い一つ一つとっても、とても気を使わないといけない仕事なのです。だから、ゲートキーパーは非常に厳しい仕事を担わされていると思うのですけれども、それは担当課としてどのように受け止めておられますか。

○前田智永委員長　　部長。

○岡本貢生活福祉部長　　ゲートキーパーの仕事のことを言われましたけれども、先ほど係長が申しましたことと重なる部分もありますが、本計画書の用語説明のところに、ゲートキーパーとはこういうことですというのが書かれています。それを読んでみると、「悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人のこと」とあります。ですから、ゲートキーパーというのは、自殺しそうな人をパトロールして見つけて止めるということではなく、何気ない変化に気づいたり、

打ち明けやすい雰囲気をつくって話を聞いてあげたり、こういうところに相談すればいいのではないのかという助言をしてあげたりするという、人との接し方のことになるかと思います。自殺対策に限らず、そういう人との関わり方をしていただくことによって思いとどまる人や必要な関係機関とつながる人が１人でもおられればということで取り組んでいます。ゲートキーパーという言葉はハードルが高いということであれば何か違う形でアプローチしたほうがいいのかもしれませんけれども、この講座を受けていただいた方にとっては、こういう関わり方をすればいいのだということを改めて気づく機会にはなるかと思います。今後もゲートキーパーを養成していくということは計画にも掲げていますので、取り組んでまいりたいと考えています。

○前田智永委員長　　近藤委員。

○近藤久子委員　　結局は、ゲートキーパーという肩書とかその講習を受けなくても、例えば、デイサービスなどをしている職員そのものは、常に来られた方の顔色をうかがい、言葉をうかがい、爪が伸びているねから始まって、チェックというか、相対して見るわけですよね。そうなると、ゲートキーパーという肩書がなくても、みんながそれぞれしなければいけないことであって、しんどいから話を聞いてという人がそんなにいるとは思わないので、どのような感覚で気づいてあげられるのかなと。気づく人は誰であってもいいと思うのですけれども、気づいた人がどこにつなげればいいのかという道筋を知らないといけないと思います。気づいてそのままでは話にならないのですけれども、自分ができないところはどこかの組織につなげる、誰かにつなげる、そういう力を持った地域であればまだ救える命があるのかなと思います。少し物々しい言い方をしたかもしれませんが、いかがですか。

○前田智永委員長　　課長。

○亀山慎也保健医療課長　　言われたことは大変重要なことだと思います。ホームページ上などでもいろいろな専門機関につながるように努力はしていますが、なかなかそういったところにたどり着けない、言うことができない人については、ゲートキーパーの人に責任を負わせるわけではないのですが、実際にある程度そういった話をする中で気づいていただけるような、いち早く次の機関等につなげていくような形態がとれればいいのかなと、これは理想ですが、思っています。

○前田智永委員長　　他にありますか。岡野委員。

○岡野茂委員　　各学校において、いのちの学習やＳＯＳの出し方に関する教育を実施しますと書かれているのですけれども、いのちの学習というのは非常に重いテーマなのですが、例えば、何年生を対象にとか、中学生を対象にとか高校生を対象にとか、何かそういう決まりというか、こういう形がいいですよというような指導とかがあるのですか。

○前田智永委員長　　係長。

○横山美和子保健医療課健康推進係長　　基本的には、市内の中学校３年生に対して取り組んでいます。３年生は必ずこの授業を受けることになっているので、今、市内全ての中学校で取組に御協力いただいています。内容は、まず自分のことを知ろうということで、もちろん出産の話もしますが、みんなで血圧を測定してみたりとかそういう実技も入れながら。あとは、出産の話をしたりして、皆さんは奇跡の１人なのだよというような話をしています。中学校３年生にしたのは、高校生になると市外の学校に行かれる方もおられるので、その前にこういったいろいろなことを学んでいただいて、そのあとはもう義務教育ではなくなるので、自分の知識の中で、どのように生きていくのかというか、選択をするのかというように役立てていただければということで行っています。ただ、最近は小学校から

も時々御相談があるので、全部ではありませんが、内容は学校と相談しながら決めますが、中学校３年生にしている内容の一部を小学生に。学年は様々ですが、高学年が多いです。あとは、今年は格致高校からも御要望があったので、４月か５月に行かせていただきました。

○前田智永委員長　　生理の学習のときにされる学校が多いですよね。性教育というのですかね。他にありますか。松森委員。

○松森潤平委員　　私の経験なのですけれども、実際にこういったことが身近で起こりましたし、昨年８月に、命を見つめる時間という講座を受けていろいろ勉強する中で、身近な人、お父さんとかお母さんとか同居している方が、気にかけてあげるというか、声をかけてあげることが大事だというようなことを講師が言われていました。若い子がＳＮＳとかでそういった思いを投稿したりする現状もあると言われていました。本人が周りの人に相談することはなかなか難しいと思うので、周りの人に気づいていただけるような啓発というか、声かけをしっかりしましょうというようなことをどんどんしていただければ一番いいのではないかということで、意見として言わせてください。

○前田智永委員長　　他にありますか。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○前田智永委員長　　それではこの程度で。これまで３項目について深掘りしながら意見交換をしましたけれども、総括として、全体的なことも含めて何か御意見、御質問等があればお願いいたします。今度、10 月の初めの週に、我々教育民生常任委員会は、健康づくりに特化したものではなく男女共同参画という視点で視察に行きますけれども、その中の分科会では健康づくりも項目に挙がっていました。本市の状況はもちろん、国・県の状況をそれぞれ学びながらそこに向かっていければよりよい研修になるのではないかと思います。ぜひ、今日に限らず、しっかりと勉強しながら、担当課の方々とも意見交換をしながら向かっていければと思いますので、本日はこの程度でよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○前田智永委員長　　それでは、質疑がないようですので、この程度で終わります。執行者退席の間、休憩といたします。

〔執行者　退席〕

午後２時 00 分　　休　　憩

－－－

○前田智永委員長　　協議事項２点目に移ります。行政視察が迫ってまいりました。先ほども少し触れましたけれども、行程等をつくっていただいたので、事務局から説明してください。

○橋本和憲議会事務局議事調査係　　それでは、日本女性会議 2025 橿原への視察について説明いたします。視察行程を御覧ください。10 月３日、金曜日、10 月４日、土曜日の２日間で視察を実施いたします。まず、１日目の 10 月３日、金曜日ですが、早朝に出発し、昼前に会場である奈良県社会福祉総合センターに到着予定です。到着後、12 時 30 分から分科会が始まりますので、委員の皆様には、それぞれ事前に御希望された分科会に参加していただきます。分科会は前半と後半に分かれており、休憩を挟んで２時間ずつ行われ、終了は 17 時 30 分の予定です。その後、近隣のホテルに移動して１泊いたします。次に、２日目の 10 月４日、土曜日ですが、オープニングが９時半からとなっていますので、それにあわせて会場へ向かいます。２日目の会場は奈良県橿原文化会館で、全体会ということでシンポジウムや特別講演会が行われます。そちらを聞かせていただいて、帰りの都合もありますので、特別講演終了後、15 時前頃に帰路に着く予定としています。簡単でありますが、説明は以上です。

○前田智永委員長　　この件について、皆様から何か御意見や御質問はありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○前田智永委員長　　それぞれ御希望いただいた分科会の内容等も別紙で掲載していますので、御自身の担当の分野も含めてもう１回御確認いただいて、少し事前学習をしてから行ければなと思います。よろしくお願いいたします。何か不明な点等があれば、閉会後でもよいので私か事務局に言ってください。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○前田智永委員長　　それでは、２点目を閉じます。

－－－

関連づけてということでも難しいかと思います。もし放課後児童クラブについて調査したいということであれば、それに即した項目を再度設定する必要があるかと思います。もちろん御意見は重要な御意見として、今後どのようにすればいいのだろうかということも踏まえて皆さんとまた協議してまいりたいと思います。今挙げている３項目で少し深掘りをして、調査したことを最後に本会議で報告しなければなりません。そこまでをしっかりと視野に入れて、項目に挙げた責任として、こういったことを調査してこういったことを提言すべきではないかという視点を持って活動していただければなと委員長としては思います。青山委員。

○青山学委員　　教育条件整備ということで、学校生活は教育条件で、体育館とかも教育条件に入るのかなと思います。言われている、体育館の熱中症対策であったり、雨が降ったらすごい音がするとかそういったことも教育条件に入るのではないかと思うので、体育館をいろいろ見てみて、床がひどいとか、スロープが全然できていないところを全部見てみたいなという思いがあります。

○前田智永委員長　　今、御意見をいただきました。教育施設の調査ですね。副委員長。

○國利知史副委員長　　今回私も一般質問をしているのですけれども、プールとかも大分老朽化していて、体育館も一緒ですが、昭和50年とかにできているものなので、老朽化している学校の設備ですよね。条件整備にもいろいろあると思います。ハード面の条件を整備するのか、それとも教育内容の条件を整備するのかで２通りというか、さらに分けることができると思うのですけれども、今、青山委員も言われましたし、私も一般質問で気になっていたところでもあるので、老朽化している施設を今後どうしていくのかということも調査してほしいなという思いはあります。

○前田智永委員長　　本日、決算審査の主査報告をいたしましたけれども、皆さんの御意見の中でも施設の老朽化と今後の方向性はキーポイントになるのかなと私は思いましたので、３項目の中で、教育条件整備については、この部分に特化してすべきなのか、体育館もプールも学校施設もスロープもというような全体的な視察も含めて、少し管内の学校に伺う方向で調整してみてはどうかと思いますが、御意見をお願いいたします。近藤委員。

○近藤久子委員　　教育条件整備は、今のような施設整備のこともありますし、この話をしたときには、子供数が減る中で、再配置計画が進んだり止まったりいろいろとありましたけれども、実際の子供の出生数を見たときに、比和中学校の現状、複式形態は広島県ではあそこだけです。ではどうしていくのかなと。それは、総領中学校のこともあるかもしれません。小学校の場合は比和と総領は残すという方向づけもあったみたいですけれども、私たちは子供の人数を改めて知る必要があるのではないかと思います。それからどうのこうのと、教育委員会との話になるのですけれども。児童生徒数の推移を知らないで次の議論にはなかなかならないかなと思います。再配置も避けて通れない部分もあるし、結局は子供たちの教育状況をどう整えるかということが根底にあるのであって、小さいものを大きくすればいいという考えでは全くないわけです。それは、就学児童を抱える実際の保護者と地域の方々が、自治振興区の関係もですけれども、オーケーしないとあり得ないことですから、それまでの資料を私たちは知る必要があるのかなと。議論はその次なのかなと思います。

○前田智永委員長　　まずは一度勉強会をしようという御意見でよろしいですか。皆さん、これについて御異議はありませんね。それでは、担当課の方とも調整を図らなければならないかもしれませんけれども、教育条件整備についてといっても非常に広いので、施設面、児童生徒の状況、それから、今後の方向性、再配置計画も含めてまずは勉強をしようではないかということで調整したいと思いますが、

よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○前田智永委員長　　それでは、教育条件整備については、担当課との勉強会なのか、どういった形でするのかは副委員長と調整して決めたいと思います。男女共同参画については、先ほど事務局から説明があったとおり、来週視察に行きますので、それを終えてからまた反省や、今後の方向性についても探っていきたいと思います。それから、健康寿命の延伸について、本日、保健医療課と話をしましたけれども、委員長としましては、これは１課だけでどうこうというわけにはいかないのかなと。本日の会議でもかなり話が出ましたけれども、高齢者福祉課であったり、教育委員会であったり、様々、多岐にわたる活動、取組をされているので、この視点でのそれぞれの取組も少し伺いながら勉強して知見を深めていければなと思います。それぞれ担当課と調整をしながらになるので、こちらについては委員長・副委員長にお任せいただいて、皆様に都度お諮りしてもよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○前田智永委員長　　それでは、協議事項３点目、閉会中の継続調査についてを閉じます。

－－－

庄原市議会委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

教育民生常任委員会

委　員　長